

## 特色ある学校

### 工業版エンカレッジスクール —学び直しから進路実現へ—

東京都立練馬工業高等学校  
統括校長 守屋 文俊

#### 1. はじめに

本校は、昭和37年に設置され、昭和38年4月に機械科6クラス、電気科2クラスにより開校した。昭和63年には、機械科2クラスを電子機械科2クラスに学科改編を行い、生徒数の減少などにより、平成6年までに、機械科2クラス、電子機械科2クラス、電気科1クラスの5クラスの規模の学校になっている。

平成17年に「都立高校改革推進計画 新たな実施計画」により、工業版エンカレッジスクールに指定され、平成18年4月に、「キャリア技術科」5クラスに改編となり、13年目を迎えた。また、平成34年には創立60周年を迎える。

入学定員は、1クラス35名で、1学年175名体制である。

#### 2. 本校の特色

エンカレッジスクールとは、これまでの学習で力を発揮できなかった生徒が、もう一度、「学び直す」ための学校である。

生徒の「学びたい。可能性を見つけたい。社会で役立つ技術を身に付けたい」というやる気を応援する学校である。

まずは、やる気を実現するために、生活習慣や学習習慣を見直してもらう。そして、学校生

活の中で「わからない」ことはたくさん出てくるが、その「わからない」を「わかる」ように指導していく。

卒業の頃には、希望する進路の実現や、自分の可能性を広げたりできるようになる。これがエンカレッジスクールである。

現在、都立高校には都立高校改革により、6校のエンカレッジスクールがある。普通科が4校、工業高校では本校と、本校の取組の成果を踏まえ、平成30年度から中野工業高校がエンカレッジスクールになった。

本校のエンカレッジスクールは、7つのキーワードを特色としている。

- ① 二人担任制
- ② 朝学習とベーシック
- ③ 30分授業
- ④ 習熟度別授業と少人数授業
- ⑤ 体験学習・選択科目
- ⑥ キャリアガイダンス
- ⑦ 日常の取組を評価

##### (1) 二人担任制

第1,2学年では、1クラスに担任が二人いる。二人は担任、副担任ではない。生徒と教員の日常的な対話を基調として、心の触れ合いを大切にする指導や、生徒の健康・安全の指導に努めるため、二人担任制とし、きめ細かな対応、相談ができる態勢を取っている。

第3学年では、1クラスに担任は一人になるが、

学年主任が学年全体をサポートしている。

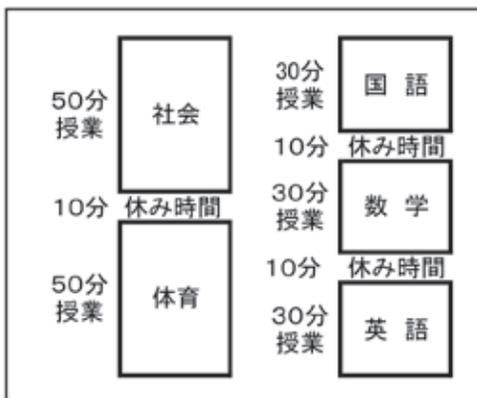
## (2) 朝学習とベーシック

毎朝8時30分から10分間、基礎学力定着のための朝学習を行っている。朝学習の10分間をしっかりと組みませ、朝から集中できる人間を育てるとともに、遅刻防止にもなる。生徒たちの大半は就職していく。就職先で、遅刻をしないで、朝から元気に働ける。それを3年間かけて鍛えていくのが、朝学習の10分間の最大のねらいの一つである。

さらに、第1学年では、国語・数学・英語の3科目において、中学校までの勉強の学び直しを行う「ベーシック科目」を設置している。

## (3) 30分授業

個に応じた指導とわかる授業の確立のため、基礎学習を重視している。そして、学習習慣を身に付けるため、1学年の国語・数学・英語の3教科は「30分授業」で週3回授業を受ける。1回の授業時間が短くなる分、1週間に行われる授業回数が多くなり、繰り返し学ぶことができる。また、短時間の授業で集中力を維持して取り組めるよう、教員が指導方法の工夫も行っている。



## (4) 習熟度別授業と少人数授業

習熟度別授業は、1,2学年の「国語」、「数学」、「英語」と、専門科目の座学「工業数理基礎」の授業において、生徒の学習到達度に応じた授業が受けられるようにしている。

少人数授業は、第1,2学年の理科、情報技術基礎、第2学年の家庭基礎は、1クラスを2つに分けるなどして、手厚い指導を行うことにより、「基礎学力の向上・定着を徹底」できるようにしている。

## (5) 体験学習・選択科目

第1,2学年では体験学習を2単位実施している。授業に興味・関心のある生徒に意欲がわいてくるような教育、また、多くの人との出会いにより、自ら律し、他者と協調し、他者を思いやる心など豊かな人間性を育む教育を推進するため、体験学習を重視している。

体験Ⅰでは、スポーツリーダー・コーチ、ストリートダンス、洋菓子製作、福祉介護、写真表現技術、アニメーション制作、お茶と礼法、木彫り細工、スタンドグラス、農業と園芸、スクリーン印刷、メタルクラフトの講座の中から1講座を選択し行っている。



写真技術

体験Ⅱでは、検定や資格取得を目指す学習を行い、自分の可能性を広げ、挑戦することの大切さを学ぶ。

## (6) キャリアガイダンス

本校では、「キャリア教育」の充実を目指し、学校設定科目「キャリアガイダンス」を設置している。キャリア教育は各学年において計画的に実施している。

第1学年は、生徒自身の将来設計を描かせ、進路目標を設定し、実現するための計画を立て

る段階である。

第2学年は、「働く」こと、3学年の「専門系列」(第3学年から工業分野の6つの系に分かれて学習する※)の選択を考えさせるとともに、インターンシップを実施している。

第3学年は、「キャリアガイダンス」での計画に基づいた進路実現をしていくことを目指す。

※ 第3学年から6つの系列「機械加工技術系列」、「オートメカニック技術系列」、「設備技術系列」、「デザイン・DTP技術系列」、「インテリア技術系列」、「コンピュータ技術系列」に分かれて学習する。

#### (7) 日常の取組を評価

エンカレッジスクールの評価については、学習への態度、意欲等を評価に取り入れるとともに、定期考査は実施せず、学期末に確認テストという形で実施し、出席点や課題等の提出物や授業ごとの小テストを加味し、実技等を実施する教科については、技能、努力点などにより多様で多面的な評価を行っている。

### 3. 職業観・勤労観の育成を目指すインターンシップ

本校のインターンシップは、「キャリアガイダンス」の一部として実施し、平成18年度から、第2学年全員が参加している。

毎年、東京商工会議所練馬支部、東京都中小企業家同友会、ハローワーク池袋、東京都中小企業振興公社と連携して、130社以上の企業から協力が得られている。今年度は、11月14日から16日までの3日間で、生徒150名が、生徒の希望をもとに82社で実施する。

また、本校では、夏季休業中に、希望する生徒に対し、技能習得型インターンシップも実施している。これは、高校生がものづくり企業において、熟練技能者から実技指導を受け、実践的な技術・技能を備えたものづくり人材を育成することを目指すものである。今年度は、5名の生徒が参加した。

毎年12月には、お世話になった企業の方や在校生に向けて報告会を行っている。更に、卒業後の進路実現のため、職業や職場の現状を理解し、次年度に向けて進路決定のための目的意識や意欲を培っていく。また、インターンシップに協力して頂いた企業からの求人も多く、インターンシップを体験した企業に就職を希望する生徒も増えている。



インターンシップの様子



技能習得型インターンシップの様子

### 4. 進路実現に向けた新たな取組

昨年度から東京都教育委員会より、「ゆめナビプロジェクト研究校」に指定され、この取組の一つとして、「都立高校生の社会的・職業的自立支援教育プログラム」を実施している。

このプログラムは、企業や大学、若者支援に関する専門的知識や経験を有するNPO法人と連携し、社会や職業について、実感を持って理

解しながら、将来、社会人、職業人として生活していくために必要な能力等を身に付けることができる内容になっている。本校では、NPO法人「16歳の仕事塾」と連携し、社会人・職業人と接する機会が少なく、アクティブ・ラーニングの授業が少ない第1学年を対象に、3つのプログラムを実施している。

- ① チームコンセンサス・ワークショップ
- ② 職業人へのインタビューワークショップ
- ③ 社会人の中の自分役割から考えるワークショップ

(1) チームコンセンサス・ワークショップ

このワークショップは、グループ・ワークを通じて、自分の考えや意見をしっかりと他人に話し、ディスカッションしながらチームとして最適解を出すことが大切であることを学ぶ課題解決型のプログラムである。



チームコンセンサス・ワークショップ

このプログラムを終えた生徒たちは、「みんなで、意見を出し、まとめるのは大変だったけど面白かった」、「一人の意見だけでは、判断できないことに気付いた」など、個人の意見を尊重し、集団討論を行う大切さを実感していた。

(2) 職業人へのインタビューワークショップ

このワークショップは、職業人から直接仕事や働くことについて話を聞くことで、生徒自身の将来設計を考えるきっかけやヒントを得るプログラムである。

このプログラムを終えた生徒たちは、経験豊



インタビューワークショップ

富な職業人へインタビューをするなかで、生徒自身が主体的に進路について考えることができていた。また、知らない人や異なる年齢の大人と話し、コミュニケーション能力を実践的に身に付けることもできた。

(3) 社会人の中の自分役割から考えるワークショップ

このワークショップは、グループでの共同作業をとおして、社会人として求められる基礎的な力「社会人基礎力(3つの能力と12の要素)」を理解するためのプログラムである。

このプログラムを終えた生徒たちは、自己の新たな発見、課題などを見出し、社会人として必要な能力について考えることができた。1年生の早い段階から、自分の将来を見据え、「社会人・職業人」を意識することができた貴重な経験となった。

このように、工業版エンカレッジスクールである本校では、学び直しをしっかりと行うとともに、健全な職業観・勤労観の育成を目指し、「キャリアガイダンス」、「インターンシップ」、「ゆめナビプロジェクト研究校」を、進路実現するための柱と考え、「キャリア教育」の充実を図り、生徒の希望する進路に結び付けていくために、教職員が一丸となって取り組んでいる。